

平成28年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	おきなわけんりつなはこくさいこうとうがっこう				②所在都道府県	沖縄県
28～32	①学校名	沖縄県立那覇国際高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 966名 国際科 137名 計 1,103名	
	普通科	320	20	20	360		
国際科	40	40	40	120			
⑥研究開発構想名	「平成の大交易時代を構築せよ！」 沖縄からグローバルリーダーを創出						
⑦研究開発の概要	「島嶼圏における持続可能で自立した成長モデルの構築」を目指し、沖縄の観光・健康・環境をサブテーマに課題研究を行う。海外派遣をとおして、モデル構築における諸課題を他国の生徒と共有、発表、討論等を行い、アジア太平洋地域における自立したビジネスモデル構築に寄与する提案が可能なグローバルリーダーを育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校が考えるグローバルリーダーとして必要な資質とは、「国際社会への貢献」と「異文化との共生」という視点から、①郷土の自然と歴史、伝統、文化を大切にする心で、②自ら課題を設定し解決する力を持ち、③様々な国々との交流を通して、国際社会に積極的に協力・貢献し活躍できる資質の事である。</p> <p>現在、世界的にも「持続可能な開発」の必要性が叫ばれている中、島嶼県の沖縄がこれからも継続して成長していくためには、自然環境や観光・文化コンテンツを新たなビジネスモデルに転換できる人材の育成が喫緊の課題である。その現状を踏まえ、琉球大学や沖縄科学技術大学院大学、地元企業等の産学官民で連携し、「島嶼圏における持続可能で自立したビジネスモデル」の構築をテーマとした課題研究を行い、海外派遣事業を実施する。本県は、14世紀後半から16世紀にかけて東アジアから東南アジアにいたるまでの海域において、海上貿易で一時代を築いた「大交易時代」の歴史を持つが、この研究開発により、沖縄と同様の環境を持つアジア太平洋地域と島嶼圏へ構築したモデルの輸出（発信・提案）を行うことで、「平成の大交易時代」の再現を図る。これにより、地域並びに世界を牽引するグローバルリーダーを育成することをねらいとする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は最も新しい進学校として設立され、本県で1、2位を争う進学実績を持っている。入学希望者も多く、進学意識が高い生徒が集まっている。しかし、郷土の文化やアジア太平洋地域に関する知識が乏しく、関心も高いとは言えない。かつての大交易時代で繁栄した琉球王国の末裔でありながら、沖縄や日本を繁栄させていく気概のある生徒が少ない。それは、体験型学習や課題解決型学習が豊富とは言えない教育課程に要因があると考えられる。</p> <p>【仮説1】 私たちの文化や政治・経済、社会活動とは異なる国や地域の多様性と特徴を理解し、違いを認識する。そのことで、異文化との共生および、協働が求められる国際情勢の中、国際的に活躍できる人材を育成する事が出来る。</p> <p>【仮説2】 世界と地域が抱える様々な課題に対して、主体的に向き合い、その解決に向け、行動を起こす事が出来る語学力と能力を育成する。</p> <p>【仮説3】 ローカルな視点で課題について探求し、持続可能で自立したビジネスモデルを考え、そこで得た知識・技術（問題解決力）をグローバルな視点に広げ、アジア太平洋地域に積極的に協力・貢献できるように沖縄から世界へ飛躍する気概をもった生徒を育成する。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究成果や事業内容を生徒たちが運営する特設のWeb上で発表し、国内外へ発信する。 地元のメディアとタイアップして情報の発信に努める。 定期的に課題研究の内容を発信する研究発表会の場を設定する。 					

	<p>・研究報告書や教材教具を公開し、外部の学術団体等から助言や指導をもらう。</p> <p>(1) 課題研究内容 「島嶼圏における持続可能で自立した成長モデルの構築」を主テーマとし、天然資源の少ない島国沖縄や日本が持続して成長するために必要な要素を研究する。生徒が主体的に考えていくべき「観光・健康・環境」の各分野をサブテーマとし、課題研究やビジネス提案を行う。研究テーマ例は以下の通りである。 【観光】 自然環境保全をベースに持続可能な観光開発モデルを研究する。急増するインバウンドへの対応や、伝統文化等の観光資源の開発を台湾やシンガポールなど島嶼国・地域の観光開発を研究・融合し、沖縄型観光像を構築する。 【健康】 欧米化による食生活等の変容と平均寿命の関連性の研究を本県とかがわりの深い米国のボストン研修を通して行う。 【環境】 環境保全、波力発電、バイオエネルギー、再生可能なエネルギーの研究し、天然震源の乏しい本県の諸課題を考察することで、アジア太平洋地域の島嶼圏の開発に寄与する能力と視野を育成する。 【1年次「守」】 国内フィールドワークを通して、郷土の伝統と文化を知り、地域の抱える課題を認識し、解決へ向けた計画を立案できる能力を養う。大学や企業等から指導・助言を受けに加え、課題探究型学習で得た知見を基に、本県の「観光・健康・環境」の現状課題についてまとめ、中間発表を行う。 【2年次「破」】 1年次で培った知識を基礎もとに海外研修を行い、アジア太平洋地域に共通する諸課題の発見と解決できるスキルを育成することで、郷土の誇りと自覚を養成する。また地域と異文化の価値を融合し新たなビジネスを創造する視点と智慧を持たせる。 【3年次「離」】 課題探究で得た知見から、持続可能で自立したビジネスモデルを英語によるプレゼンテーションをとおして世界への発信・提案することで、世界へ飛躍する気概を養う。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 (A) 課題研究のために必要なスキルの養成：課題研究のために必要なスキルの養成について研究開発単位「SG 課題探究Ⅰ～Ⅲ」を設定し諸課題を見つけ解決につなげる能力を養う。 (B) 大学、企業、公的機関等との連携：課題研究のテーマや内容等を大学等の教員、研修生を招聘し指導助言をいただく。琉球大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄科学技術大学院大学(OIST)、JICA 沖縄等の機関と連携していく。 (C) 国内外のフィールドワークを通じた研修：県内研修として文理系フィールドワーク(1年)、国内研修で立命館アジア太平洋大学研修、海外研修としてボストン研修(1年)・台湾研修・シンガポール研修(2年)において意見交換や研究発表を行う。 (D) 生徒のプレゼンテーション能力の向上：教育活動全般において生徒のプレゼンテーション能力の向上を図る。</p> <p>(2) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ・学校行事や各教科においてグローバルリーダー育成を考慮した内容を盛り込む。特にアクティブラーニングの手法を研究開発して全教科・科目で実践、検証していく。 ・1年次に企業連携としてインターンシップを行い、ビジネスモデルを研究する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 長期留学生、短期留学生を送り出すとともに、積極的に受け入れる。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>特になし</p>